

各 位

2023年 5月19日

会 社 名 東邦アセチレン株式会社
代表者名 代表取締役社長 池田 悦哉
問合せ先 総務・人事部長 吉田 雅俊
Tel 022-366-6110

取締役会の実効性評価の結果概要に関するお知らせ

当社は、取締役会の機能を向上させひいては企業価値を高めることを目的として、取締役会の実効性に関する評価・分析を実施しましたので、その結果の概要をお知らせします。

記

1. 分析・評価の方法

当社取締役会は、取締役会の実効性の分析・評価を実施するに当たり、2022年12月度の定時取締役会において、評価の手法につき検討した結果、より客観的・中立的に検証するため、本年度も引き続き外部機関の助言を得ながら以下の方法で行うこととしました。

2023年2月に、取締役会の構成員である取締役7名（常勤3名・社外4名）及び監査役3名（社外3名）並びに取締役会への出席を義務付けております上席執行役員3名の合計13名を対象にアンケートを実施しました。回答方法は、外部機関に直接回答することとし匿名性を確保しました。外部機関からの集計結果の報告を踏まえたうえで、2023年5月度の定時取締役会において分析・議論・評価を行いました。なお、アンケートの質問の概要は以下の通りです。

※ 質問概要

- | | |
|-------------------|-----------|
| ① 取締役会の構成 | (設問+自由記入) |
| ② 取締役会の運営 | (設問+自由記入) |
| ③ 取締役会の議論 | (設問+自由記入) |
| ④ 取締役会のモニタリング機能 | (設問+自由記入) |
| ⑤ 取締役・監査役に対する支援体制 | (設問+自由記入) |
| ⑥ トレーニング | (設問+自由記入) |
| ⑦ 株主(投資家)との対話 | (設問+自由記入) |
| ⑧ 自身の取組み | (設問+自由記入) |
| ⑨ 総括 | (設問+自由記入) |

2. 分析・評価の結果の概要

アンケートの分析結果から、取り組むべき複数の個別課題はあるものの引き続き当社取締役会の実効性はおおむね確保できていることが確認され、また、前年からの課題でありました取締役会の構成、株主（投資家）との対話状況の取締役会へのフィードバック、内部統制システムの構築・運用状況の監督・監視についても改善が見られました。

一方で、外部環境の変化に応じた、経営戦略や経営計画等の更新・修正に向けた議論が不十分であるとの課題も共有されました。

尚、質問に対するアンケート結果の概要は以下の通りです。

- ① 取締役会の構成（員数、知識、経験、専門性、ジェンダー、社外取締役の人数）については、法務の専門家を求める意見もあったが適切である。
- ② 取締役会の運営については、資料配布の時期が取締役会開催の直前になるという前年からの指摘事項の改善が余り進んでいない指摘があるものの、審議項目数、添付資料の内容、スケジュール調整等事務局側の運営方法については適切乃至おおむね適切である。
- ③ 取締役会の議論については、会社の事業論など中長期的な当社の方向性等を検討及び議論する時間が不十分であるという指摘は前年度から継続しており、この点は今後早急に解決すべき課題であることが共有された。
- ④ 取締役会のモニタリング機能については、関連当事者との利益相反取引については適切に管理されており、その他についてもおおむね適切である。
- ⑤ 取締役・監査役に対する支援体制については、支援体制の充実に向けた増員が必要との意見もあるがおおむね適切である。
- ⑥ 社外役員からは、業界状況、関係法令概要の取得機会の確保などのリクエストもあるが、トレーニングメニュー及び機会は確保されておりおおむね適切である。
- ⑦ 株主(投資家)との対話状況の取締役会へのフィードバックについては、前年度比では改善されているものの未だ不十分であるが、社内の広報・IR体制も整ってきており今後の活動に期待したい。
- ⑧ 自身の取組については、職務に必要となる時間の確保についてはおおむね適切であるほか、役員間の意思疎通、意見交換、議案の審議内容等は適切である。
- ⑨ 総じて当社取締役会は、おおむね実効的に機能しているが、今後は中長期戦略など会社のあるべき姿についての議論を多くとる必要がある。

3. 今後の対応について

2023年度以降の経営課題について、取締役会として改めて情報並びに認識の共有化を図るとともに、課題の解決に向けて引き続き積極的に取組み、取締役会の実効性確保に一層努めてまいります。